



Aqours
果てしなく大シャッフルずら

Aqours 果てしなく大シャッフルずら

津島善子（自称ヨハネ）に、深い存念があった訳ではない。

朝飯は小原鞠莉の所みたいにごージャスなのがいなー、ぐろろろろーと思って黒魔法使いコスプレで水晶玉の前で魔法詠唱を適当にしたら、小原鞠莉

と体が入れ替わっていた。

淡島ホテルの朝ビュッフェで、ありったけ飽食して満足し、小原鞠莉の部屋に入ってから煩く振動し続ける携帯電話を確認する。

小原鞠莉（体は津島善子）からの着信履歴が、二十件以上入っていたので、土下座しながら回線を開く。

津島善子（体は小原鞠莉） 「お、おはよう、麗しのマイボディ」

小原鞠莉（体は津島善子） 「（押し殺した声で）元に戻るのは、いつ？」

津島善子（体は小原鞠莉） 「…さあ？」

小原鞠莉（体は津島善子） 「さあ？」

津島善子（体は小原鞠莉） 「適当に魔法を使ったの

で、適当な返事以外が、返ってくるはずがないのよ！

（大笑い）」

小原鞠莉（体は津島善子）「（大笑い）ゲームのセーブデータが人質よ。真面目に答えなさい」

津島善子（体は小原鞠莉）「勘弁してください、すぐに参上します」

小原鞠莉（体は津島善子）「来ないで。淡島ホテルで合流します。他のメンバーにも、そう伝えたわ」

津島善子（体は小原鞠莉）「い??」

小原鞠莉（体は津島善子）「A q o u r sの全員が、入れ替わっているわ。解決するまで、緊急合宿よ」

津島善子（体は小原鞠莉）「はっはっは、そんなバカな」

小原鞠莉（体は津島善子）がヨハネのスマホを握り潰す音が、津島善子（体は小原鞠莉）に聞こえた。

津島善子（体は小原鞠莉）「ああああああああ」

集合したAqoursのメンバーを見渡して、津

島善子（体は小原鞠莉）は一目で気付いた。

高海千歌と桜内梨子が、入れ替わっている事に。

高海千歌が桜内梨子のような困り顔をして、桜内梨子が根拠のない自信に満ち溢れた笑顔を浮かべながら、高海千歌の手を握って励ましている。

黒澤ダイヤ（体は桜内梨子）「安心しなさい、ルビィ。このような異常な状況、面倒くさいので長続きしませんわ」

黒澤ルビィ（体は高海千歌）「千歌ちゃんには、お姉ちゃんが二人もいるから、ルビィ、甘え過ぎてダ

メになっちゃう！」

黒澤ダイヤ（体は桜内梨子）「ルビィ、健気な子！」

津島善子（体は小原鞠莉）「紛らわしい！」

ツツコミを入れた津島善子（体は小原鞠莉）に、
被害者たちが詰め寄る。

高海千歌（体は黒澤ルビィ）「家の手伝いに穴が空
いちゃうから、早く元に戻してね」

桜内梨子（体は黒澤ダイヤ）「無理ですからね、黒
澤家で姉妹になりすますなんて、き、斬られちゃう
ううう」

国木田花丸（体は渡辺曜）「打ち首ずらく」

渡辺曜（体は松浦果南）「船で海外逃亡するであり
ます！」

黒澤ダイヤ（体は桜内梨子）「あなた方は、黒澤家に遺恨でもあるのですか?!」

黒澤ルビィ（体は高海千歌）「早く元に戻して〜」

小原鞠莉（体は津島善子）「私じゃないから。こっち」

津島善子（体は小原鞠莉）「オッス、オラ悟空」

高海千歌（体は黒澤ルビィ）「楽しんでるね、ダ

メ天使」

津島善子（体は小原鞠莉）「おっぱいデカいと、世界が変わる！」

松浦果南（体は国木田花丸）「ハグしよっ？」

話の流れをぶった斬った松浦果南（体は国木田花丸）に、皆の視線が集まる。

松浦果南（体は国木田花丸）「ハグすれば、元に戻らない？」

戻った。

高海千歌「よかった、即解決で」

桜内梨子「次はヨハネの処刑ね」

渡辺曜「執行猶予は？」

黒澤ダイヤ「苦痛を長引かせるだけです。処しまし
よう」

松浦果南「ハグで治る程度の事なのに？」

小原鞠莉「再発防止に、サクッといきましょう」

黒澤ルビィ「ルビィは、楽しかったルビィ」

国木田花丸「市中引き回しずら」

津島善子は、土下座しながら、謝罪を述べる。

津島善子「えゝ、この度はゝ、ヨハネの溢れて輝く
闇の才能が、予期せぬ混乱を皆様方にもたらした事、
誠に遺憾でイヤンバカンにつき、ごめんなさいいい
いいいいいいいいいいいいいいいいいいいい」

津島善子の、スカートから半ケツ出しながらの土下座姿をスクショして、Aqoursのメンバーは許してやった。

習
立
日
○

朝目覚めると、津島善子は国木田花丸の体と入れ替わっている自分を発見した。

寺の中なので、ひよっとすると誤解されて悪霊退

散されちまわないかとビクビクしながら、国木田花丸になりすまして朝食を食べる。

津島善子（体は国木田花丸）「今朝の牛乳は、五臓六腑に染み渡るずらゝゝ」

苦手な牛乳を大絶賛した事で、なりすましを見抜かれて悪霊退散されかけたが、中身ヨハネだと明かすと「じゃあ、仕方ないずら」と解放された。

無事に済んだが、花丸が家人にヨハネをどう語っているのか気になって、釈然としない善子だった。

【同時刻、黒澤家】

小原鞠莉（体は黒澤ルビィ）「お姉ちゃん！ 朝のおっぱいを飲ませて欲しいルビィ！」

黒澤ダイヤ（中身は？）「おう、飲め飲め」

黒澤ダイヤ（中身は？）は、躊躇いもなくトップレスになった。

小原鞠莉（体は黒澤ルビィ）「果南ね？」

松浦果南（体は黒澤ダイヤ）「飲まないの？」

【同時刻、淡島ホテル】

黒澤ルビィ（体は小原鞠莉）は、小原鞠莉のワガママボディーを、様々なアングルでスクショしまく

ったが、それが小原鞠莉のスマホであると思い至り、泣く泣く消去する。

【同時刻、渡辺曜自宅】

桜内梨子（体は渡辺曜）は、年に数回しか帰って来ない渡辺パパが、ラフなパジャマ姿で胸毛を見せて付けながら話しかけて来たので、気絶した。

【同時刻、安田屋旅館】

渡辺曜（体は高海千歌）は、目を覚まして再びの異変を確認するや、窓越しに桜内梨子の部屋に大ジャンプ移動する。

高海千歌（体は桜内梨子）は、桜内梨子の最新下着コレクションを、物色している最中だった。

高海千歌（体は桜内梨子）「あ、丁度いいや。私の体にも試着して欲しい」

渡辺曜（体は高海千歌）「よっしゃであります」

それぞれが柔軟に、あるいはバレバレでなりすましつつ、朝食を済ませた。

津島善子（体は国木田花丸）「ハグだけじゃあ、ダメずら。もっと根本的に解決しないと、いけないずら」

淡島ホテルに再集結したA q o u r sのメンバーに、津島善子（体は国木田花丸）はそう宣言して、
凄い目で睨み返されて土下座して控えた。

国木田花丸（体は津島善子）「紛らわしいから、ず
ら一族以外は語尾にずらを付けて欲しくないずら」

津島善子（体は国木田花丸）「分かったずら」

国木田花丸（体は津島善子）「それでいいずら」

津島善子（体は国木田花丸）「∴」

国木田花丸（体は津島善子）「∴」

津島善子（体は国木田花丸）「いえ、今のはわざと
ではないずら」

国木田花丸（体は津島善子）「おかしいずら。体に
合わせて、アホになっているずら」

小原鞠莉（体は黒澤ルビィ）「確かに、ダイヤに無性に甘えなくなっただかも」

黒澤ルビィ（体は小原鞠莉）「ルビィは無性に、おっぱいミサイルを撃ちたくなったルビィ！」

黒澤ダイヤ（体は松浦果南）「ルビィ！ はしたないですわ！ 爆乳ミサイルなどと！」

松浦果南（体は黒澤ダイヤ）「ぱふぱふしよっ！」

渡辺曜（体は高海千歌）「今度は、ぱふぱふで治る？」

桜内梨子（体は渡辺曜）「是非とも試すであります！」

高海千歌（体は桜内梨子）「ああああああああ相手が違うよ梨子おおお？！」

淡島ホテルでは、しばらくの間、

「Aqoursのメンバーが、ぱふぱふをし合って

いる面妖な現場が目撃された」

という風聞が流れたが、定かではないすら。